

CAGLIERO

サレジオ会
宣教ニュース

N.99 - 2017年3月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



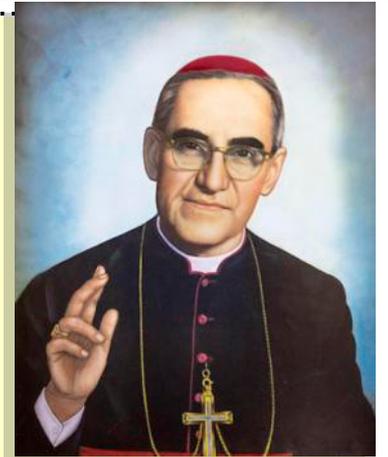
昨年12月8日の宣教への呼びかけで、総長は次のように語っています。「会の中で、私たちが存在を維持できなくなっている場所があります。五大陸の一部の国々では、奉仕できるサレジオ会員がいない、……私は特に、次の現場で私たちが待つ若者たちのことを思います。プロジェクト・ヨーロッパにおいて、中東、イスラム教徒が多数を占める国々で、オセアニアの島々、南スーダン、モンゴル、シベリア、カンボジア、マレーシアで、またアメリカ大陸の移民の若者たちの中で……そのほか多くの場所で！」興味深いことに、まるでドン・ボスコ自身が語るのを聞いているかのようです。ヴァルドッコの上の階、執務室にいるドン・ボスコ、地球儀を何度も回しながら、子らを送りたいと望む地上の場所を確かめているドン・ボスコが目の前にいるかのようです。私たちは、これらの国一つひとつ、それぞれの青少年司牧の前線を取り上げ、そのために(1)祈る、(2)情報を集める、(3)知らせることができるでしょう。そのようにするとき、無関心も無知も私たちに麻痺させることはできないでしょう。

「ドン・ボスコは生きています」、ドン・アンヘルは繰り返します。ドン・ボスコは実にいのちにあふれ生きています。特にドン・ボスコは、子ら一人ひとりのうちに宣教精神を生き生きと保たせたいと願っています。感謝……そして勇気を出して!

宣教師顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

愛の力で憎しみの力に打ち勝つ

「福者オスカル・ロメロの声は今日も響いています。主を囲む兄弟の集いである教会は神の家族であること、その中に分裂があってはいけないことを私たちに思い起こさせるために。正しく理解され、その最終的な結果が受け入れられるとき、イエス・キリストへの信仰は平和と連帯を築く共同体を生み出します。エルサルバドルの教会が今日、アメリカ大陸、また全世界で行うように呼ばれているのは、このことです：あわれみに豊かであり、社会のために和解のパン種になることです。……ロメロ大司教は、良識と内省へ、いのちと調和を尊ぶことへと私たちを招きます。剣の暴力、憎しみの暴力を棄て、キリストを十字架にとどまらせた愛の力を生きなければなりません。それは私たち一人ひとりに自己中心を乗り越えさせ、私たちの間にそのようなむごい不平等がもはや存在しないようにさせます。ロメロ大司教は、持っているものを人の利益のために手離すことを望まない人々のうちに潜む利己主義を見ることができ、身をもって経験しました。そして父の心で、「貧しい大多数の人々」のことを心配し、権力者たちに、「武器を労働の鎌」に換えるようにと求めました。……ロメロ大司教を信仰の友と仰ぐ人、保護者、取りなし手として祈りのうちにロメロ大司教を呼ぶ人、崇敬をこめてその聖画を見る人が、神の国を建設するための、より平等な尊厳ある社会秩序に献身するための力と勇気を、福者のうちに見いだしますように。」



教皇フランシスコ

(ロメロ大司教列福にあたっての書簡, 2015年5月23日)

3月24日
福者オスカル・ロメロ殉教の日
宣教師殉教者の記念日



沖に心を向けるために恒常的に“休まることのない”状態!



私

がサレジオ会と出会ったころ、会全体に宣教の熱意があふれていました。プロジェクト・アフリカのためだけでなく、ヴィガノ総長がすべての管区にそれぞれ一つの宣教地を担当するよう求めたからでもありました。私の管区の多くの会員はすでに宣教師として派遣されていました。私の心は休まりませんでした。私も慣れ親しんだ岸辺を後にし、沖へと心に向けるよう内面の呼びかけを感じていたからです。

私の宣教師志願の手紙が受理されたとき、最初の喜びはすぐに信じられないという気持ちに変わりました! パプアニューギニアに任命されたこと知ったからです。「あんな大変なところで生き延びられるだろうか?」私の不安や心配はまもなく、「わが民」の言葉と文化をよく学ぼうという決意に変わりました! ほかの4人の会員と共に、首都で新しい拠点を開きました。ドン・ボスコは、パプアニューギニアでまだほとんど知られていませんでした。開拓は大変な苦勞を要しました。すべて思いついたことをやってみなければなりません。しかしその歳月は、たくさんの創意工夫、熱意、喜びに満ちていました。叙階された後、私はその事業に再び派遣されました。私たちは、今度は地元の信徒協働者の養成に取り組みました。私はサレジオ・ココペラトリーとADMAの最初のグループも始めました。文字通り目の前で、サレジオのカリスマが根を下ろすのを見ることができました。



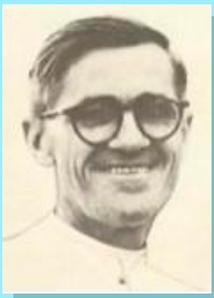
そしてある日、パプアニューギニア典礼・要理教育研究所の所長になるよう司教協議会が私に要請していると、管区長から伝えられました。私は最初、この全く新しい分野を拒みしました。自分の知る地平を越えて行きたいかどうか、決心がつかなかったのです! しかし、私は再び心が休まらなくなりました。内に閉じこもらせる不安を乗り越えて行くようにという促しを、心の奥深くに感じました! 23の教区の福音宣教の働きと共に歩んだことは、私の教会の地平、宣教師としての地平を広げたのだと、後でふり返ったとき気づきました!

その後、ローマで論文を書いていたとき、晴天の霹靂のように宣教顧問から電話があり、総本部の宣教部門の一員になってほしいと頼まれました。このときは深く悩みました。しかし同時に、心の要塞から出るよう主が招いておられることにも気づきました。再び主に信頼することを学び、もう一度歩み出すようにと。私は苦悩の識別を経てはじめてこの要請を受け入れました。しばしば困難な状況にある五大陸の宣教師たちと出会い、サレジオ会を世界的視野で見られるようになったことを、今私は感謝しています。

私は、すでに宣教部門の務めを終える準備を始めていました。するとある朝、総長の執務室に呼ばれ、新しいパプアニューギニア・ソロモン諸島準管区の長上になるよう求められました。この選択について総長の説明を聞きながら、私の頭は質問や疑いでいっぱいになりました。しかし同時に、内面の声がささやくのも感じました、もう一度、恐れず大胆に歩み出すようにと!

このように、私にとって宣教師であることは、恒常的に休まらない状態を生きること、ありそうにないことに向かって恐れずにいつでも歩み出す勇気を意味します。沖へと心に向けるよう、絶えず私たちを招かれる主に信頼することを学べるように!

フィリピン出身、パプアニューギニアへの宣教師 アルフレッド・マラヴィジャ神父



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

キューバで働いたハンガリー人宣教師、尊者ジョゼ・ヴァンドル(1909-1979)は、若い職業訓練生の養成にいつも力を入れていました。特に貧しい家庭出身の生徒のために支援を要請するのに躊躇しませんでした。「この職業訓練校の目的は、訓練生の技術的、実践的な養成です。私たちの生徒の多くは農民や平均的家庭の子どもたちで、その中には多くの孤児もいます。」



サレジオ会の宣教の意向

中東のサレジオ会員のために

中東の迫害されるキリスト者たちの中で、ひきつづき信仰と希望のしるしでありますように。

サレジオ会はシリア、スーダン、チュニジア、エジプト、パレスチナ、イラン、イスラエル、トルコ、レバノンなど、緊張と紛争の続く場所にとどまっています。これらの場所は、古くからキリスト教が深く根を下ろしているにもかかわらず、キリストの弟子たちはいまだに外国人のように見なされています。サレジオ会は、教育者、キリストのあかし人としての使命を通して、イスラムの環境で差別され迫害されるキリスト者たちが、普遍教会の愛情、連帯、交わり、信仰を感じられるよう働いています。

